

NEWS



TAKE FREE

2021.1

全国で最も低い周産期死亡率を実現

赤ちゃんの命を守る三重県の医療連携

妊娠後期に差し掛かる頃から出産直後まで、母子ともに生命に関わる事態が発生しやすい周産期。三重県は、この周産期の赤ちゃんの死亡率が全国で最小となっています。産科婦人科の池田智明教授にその実現に至る取り組みについて聞きました。

周産期死亡率というのはどういうものですか。

妊娠6か月半頃となる22週目以降から出産後7日未満までの期間は母子の生命に関わる事態が起こりやすく、特に周産期と呼ばれます。周産期死亡率は、周産期の死産と新生児死亡が出生数1000のうちどれだけあったかを示す値で、その地域の周産期医療のレベルを反映しています。

2019年、三重県の周産期死亡率が2.0と全国で最も低くなりました。全国平均3.4に比べてもかなり低水準です。

実は、2016年は5.7と全国で最も悪かったのです。県内の周産期医療の体制整備において、三重大学病院ができることは何か、私自身も2011年に当院に赴任して以降、この思いで人づくりや体制づくりを進めていました。10年かかる大仕事と考えていましたが、2016年の数字を見て非常な危機感を持ちました。全国で最もお産が安全に行われる県を目指して改めて問題点を洗い出し、緊急対策を立てて各地の産科にご協力いただきながら進めました。結果的に2019年、目標としていた全国最低レベルまで持てることができました。

3年で順位が大逆転するほどの改善は、どのように実現されたのでしょうか。

人づくりなどそれまで取り組んでいたことがやっと実を結び始めていたというのがありますが、2016年からの3年間は医療機関のすみわけを集中的に行いました。

リスクの高い妊娠、分娩は設備が整った周産期母子医療センターで扱われなければなりません。しかしながら、県内では、クリニックでもハイリスクなお産を受け入れていたり、高度な医療提供が可能な二次、三次施設でローリスクなお産を受け入れて、本来の機能が発揮できないこともあったりと、リスクに応じた医療機関のすみわけやリソースの適正活用が十分ではありませんでした。それぞれの医療機関の役割を明確にし、リスクの高い症例があれば、二次、三次の医療機関とスムーズに連携できるよう、県内の産婦人科医の連携をしっかりとりつつ、周産期リスクの取りこぼしを避ける体制づくりを進めました。

県内の産婦人科医間の連携は強いのですか。

県内5か所の周産期母子医療センターをはじめ、産科がある県内各地の病院には、三重大学病院から医師派遣を行っているので、とても強い連携基盤があります。その連携を周産期医療にいかすため、



リスクのある妊婦さんがあれば、毎朝のテレビ会議にて全員で情報共有する

各地をつないだテレビ会議を毎朝行っています。

この会議は、2012年から行っていましたが、2016年から毎朝にしました。そこで日々各病院が抱える症例と予測できるリスクを共有しておき、いざ何かあっても医療機関間の連携がスムーズに行われるようにしています。医師やスタッフは別々の医療機関にいらながらも、まるで一つのチームとして三重県全体をカバーしているように動いています。このテレビ会議もネットワークも三重県の周産期医療になくてはならないものになっています。

周産期医療のリソースが適切に機能する環境作りが少しずつ行われてきたんですね。

医療機関のすみわけやネットワークづくりだけでなく、2016年以前から県と協力して、三重県内の周産期症例検討会を行ったり、周産期に発生しやすい疾患の早期診断に向けての観察研究も進めてきました。今三重県で年間だいたい14000件のお産が行われています。とにかくその一つひとつのお産が安全に行われるように、当院や県内の産婦人科の医師スタッフができることを続けています。

それら取り組みの中で、最も大変だったのは何ですか。

「人づくり」につきます。ネットワークだけあっても、実際に高度な周産期医療に対応でき、このネットワークの意義を理解し合える人がいなければ連携も協力もありません。産科・婦人科・小児科の全分野の知識に精通し、新たな命が安全に産み出される環境を支えられる人づくりは一朝一夕では無理で、いつも10年先を見て取り組む必要があると思います。

出産・育児に関わる課題は周産期に留まりません。

今、我々が取り組み始めている一つに、障がい児ケアがあります。より手厚い介護を提供できる体制づくりに向けて、三重県や県立こども心身発達医療センターと連携しています。また、少子化対策も大変大事です。直近では、新型コロナウイルスによって約30%以上も分娩数が減少しようとしています。三重大学病院には、「どんな症例でも断らない」、「教え合う」、「逆境に強い」という3つのイムズがあります。全てのお母さんが安心して子どもを授かれるよう、三重大イムズを発揮し、知恵を絞るべきところがまだまだありそうです。

| PROFILE | 産科婦人科 科長・教授
池田 智明

趣味はジョギング。ゴルフは三重大医学部ゴルフ部の顧問を務めるほどの腕前とか。産婦人科のやりがいとは、「女性の一生と付き合うことができるライフスパンが最も長い診療科。入院は一人でも、退院のときは赤ちゃんが加わり二人以上になっている、そんな姿に『おめでとう』と言える唯一の科」であること。「女性を幸福にすることが、家庭を幸福にし、そして社会を幸福にする」との思いが産婦人科医としての道しるべ。



妊婦さんは、新型コロナウイルス感染症の重症化リスクが高いのですか？

これまでの症例から見ると、妊婦さんの方が無症状である場合が多い可能性があります。一方で、妊婦さんは、妊娠されていない方に比べて入院、集中治療室（ICU）への入院、人工呼吸器を使用した治療の割合が高いこともわかっており、「妊婦さんに重症化リスクがないとは言えない」というのが研究者の現在の見解となっています。ただし、死亡リスクが相対的に高いというデータはいまのところありません。

新型コロナウイルス感染症にいろいろな治療薬が使われています。妊婦さんにも使用可能ですか？

新型コロナウイルス感染症の治療薬の一つとして、インフルエンザ治療薬であるアビガン（ファビピラビル）が検討されることがあります。この薬は催奇形性があるため、妊婦さんに加え、これから妊娠しようとする方も服用には注意が必要です。それ以外の治療薬は妊婦さんでも使用できます。かかりつけ医と十分相談しましょう。

妊婦さんが新型コロナウイルス感染症に似た症状を感じたときは、どうしたらいいのでしょうか？

妊婦さんが感染した場合、多くの場合で発熱の症状が見られることが報告されています。また、咳、筋肉痛、悪寒、頭痛、味覚・臭覚の消失など、一般的な感染者と同様の症状があり、特に妊婦さんに限った症状というものは確認されていません。

こうした症状を感じた場合、新型コロナウイルスが疑われますが、妊婦さんの場合には、同時にインフルエンザ、A群溶連菌感染症、尿路感染症や子宮内感染症を疑うことも重要ですので、かかりつけ医に相談してください。一般の患者さんとは別の空間・時間での診察をしていただけたらと思いますし、必要に応じて発熱外来や専門内科を紹介していただけるはずです。こうした場合にも備えて、日ごろから産婦人科のかかりつけ医を持たれることをお勧めします。

新型コロナウイルス感染症 妊婦さんのリスクや注意点

産科婦人科 科長・教授 池田 智明

2020年10月の日本臨床ウイルス学会でも『妊娠とCovid-19』のテーマで発表。世界の症例を基に、新型コロナウイルスにおける妊婦さんと赤ちゃんのリスクについて研究を進めている。



三重大学病院でのお産はどうなっていますか？

現在、三重大学病院では、感染防止の立場から出産のご家族立ち合いや面会はお遠慮いただいております。

妊婦さんにはいろいろなご不安があると思いますが、医師、助産師、看護師が出来る限りサポートさせていただきます。何か心配事があれば、スタッフに遠慮なくお声がけください。



お母さんが感染した場合、おなかの中の赤ちゃんにも感染することがあるのでしょうか？

妊婦さんが新型コロナウイルスに感染し、胎盤を通じておなかの中の赤ちゃんにも感染するのは皆無とはいきませんが、きわめてまれなケースと考えられます。よって万が一、妊娠中に感染した場合も不安を持ちすぎることなく、過ごしていただきたいと思います。不安があるときは、かかりつけ医に遠慮なく相談してみましよう。

ただし、授乳中に感染した場合には、母乳をやめ、人工栄養に切り替え、接触をできるだけ避けていただくことが必要です。



新型コロナウイルス感染を避けるため妊婦さんへのアドバイスはありますか？

一般の方と同じですが、マスク着用、3密を避ける、不要な外出を避けるなどを行っていただけるとよいでしょう。三重県の産婦人科診療は、唾液PCRなど十分に対応しておりますので、不当に怖がることなく、安心して赤ちゃんをお産みください。



NEW

新教授のご紹介

気になる!!

俵 功 教授 血液内科 腫瘍内科

白血病などの治療に欠かせない造血幹細胞移植が北勢・中勢地区で唯一可能な血液内科。造血器腫瘍に対する最新かつ総合的な診療や、造血不全、血栓症・止血異常症など幅広い血液疾患に対応しています。その科長であり、血液・腫瘍内科学の研究、教育を率いる俵教授は

“こんな人!!”



新たに組みみたいこと

三つあげるとすれば、まず人材の育成です。医師の仕事は本だけでは学べず、多くのことは患者さんに学ばせてもらいます。病気とつきあう患者さんのいろいろな面を考えた、全人的な医療を実践できる医師の育成に力を入れていきたいと思っています。

私たちは、単に病気の診断と治療を行うだけでなく、患者さんの不安を少しでも軽くし、納得して治療を受けていただけるよう、またより質の高い治療を提供できるようスタッフ全員全力で取り組みます。心配なことがあれば、遠慮なくなんでも話してみてください。

患者さんへのメッセージ

また、県全域をカバーできる血液内科の高度医療のネットワーク構築も重要な目標にしています。



三重大学医学部卒業。中・高校生のとき身近にがんに苦しむ人がいたことから、がん医療を志し医学部へ進学しました。卒業後は岡山大学に3年半、米国ミシガン大学に7年在籍し、世界最先端の血液疾患やがんの研究にも関わりました。外からみた三重大学の長所は、診療科間の連携のしやすさ。それを活かして、三重大学から新しい医療を作ってゆきたいと思っています。時間があると、街歩きをしています。慣れ親しんだ場所でも必ず出会える新たな発見を楽しみながら、研究のヒントを思いつくこともあるリフレッシュの時間です。

PROFILE PROFILE

NEW

新教授のご紹介

知りたい!!

土肥 薫 教授 循環器内科

心臓病、血管病、腎臓病の高度診療を行う循環器内科。特殊な治療を要する心筋症に対しては他診療科と連携した先進治療を行っています。またカテーテル治療においては県内トップの実績を誇ります。科長として、新教授としてそんな循環器内科に取り組む土肥教授とは

“どんな人?”



新たに組みみたいこと

当科では、循環器内科医と腎臓内科医が協力して診療をしております。心臓病、血管病、腎臓病はお互いに関連性が強く、複数の疾患をもつ患者さんが多くいらっしゃいます。我々は、専門性を発揮しつつ総合的な視点に立った診療を行うことで、一人ひとりの患者さんにとって安全かつ最適な医療を提供します。

近年、心不全患者さんが急増しております。我々は独自のスマートフォン用心不全手帳アプリの開発を進めており、患者さんの日々の健康状態をオンラインで共有し、最適な受診タイミングをお知らせできるように地域医療システムを早急に構築していきたいと考えております。また、腫瘍循環器領域の診療を拡充し、患者さんが心臓合併症や血栓症を起こさずに安心してがん治療を受けていただけるように多くの診療科と協力していきたいと思っています。

患者さんへのメッセージ

高校ではサッカー部、大学ではサッカー部とスキー部に所属しておりました。1994年に三重大学医学部を卒業し、三重大学病院で研修を始めました。2002年から約3年間米国ピッツバーグ大学に留学し、その後は一貫して三重大学病院で働いております。三重県民の皆様から信頼される循環器内科医、腎臓内科医を育成します。



PROFILE PROFILE

健康一言アドバイス

コロナ禍の冬に忍び寄る 「ヒートショック」



ヒートショックって何？

我々の身体は、環境の変化に合わせて体温を一定に保つ機能を兼ね備えています。温度の変化が穏やかであればそれほど問題はないのですが、暖かいところから急に寒いところへ行くと、熱を奪われてしまい、血管が縮み血圧が上昇します。このような血圧の急激な変化は、ゾクッとして体感できるほど大きなもので、心筋梗塞や脳卒中につながり、命に関わる危険なものとなります。

ヒートショック対策

服を脱いでから浴槽に入るまでに「寒い」と感じる経験はありませんか？ヒートショックが起こりやすいのは、冬場の浴室です。1)入浴の前に脱衣所や浴室を暖める、2)お湯の温度は41度以下、つかる時間は10分までを目安にする、3)首までどっぷりお湯につからない、浴槽から急に立ち上がらない、長湯をしないなどを気をつけましょう。

コロナ禍での新たなヒートショック対策

コロナ禍で迎えた初めての冬。「ヒートショック」のリスクは入浴以外にも潜んでいます。それは感染対策で行う「換気」です。換気の目的は、マイクロ飛沫を薄めることであり、決して「部屋を寒くする」というわけではありません。1)窓を全開せずに複数の窓を少しずつ開け換気する、2)室温が一気に下がらないよう部屋にヒーターで温風を送り込みながら換気する、3)加湿器などで乾燥を防ぐとともに室温の低下を感じにくくするなど心掛けましょう。

循環器内科 中森史朗

院長から

新年のごあいさつ

「使命を全うすべく、邁進してまいります」

2021年が幕を開けました。皆様にとって良い年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

昨年の当院を振り返りますと、未知なるウイルスへの対応と皆様にも大変ご心配をおかけした臨床麻酔部の件が大きな出来事として挙げられます。この2つのことは、医療に携わる者として最も大切なことを再認識する機会でもありました。それは「医療人としての使命」です。使命とは、責任をもって果たさなければならぬ任務です。また、医療人としての使命は、悩める患者さんを前にして、自分たちに何ができるか、何をすべきかを考えて行動したとき自ずと明らかになります。

当院の基本理念は、(1)倫理・安全文化の醸成、(2)救命救急・先端医療の推進、(3)地域医療への貢献という三本柱が礎になっています。改めて職員一人ひとりがこれを意識し、医療人として、また特定機能病院としての使命をしっかりと果たしてまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

院長 伊佐地秀司

編集後記

昨年5月より広報のお手伝いをさせていただいており、今回、初めてのMINI NEWS担当となりました。広報とは一方的な情報発信ではなく、皆様を知りたいことを知るとともに、自分たちが何を伝えたいかを考える貴重な機会であることを実感しています。

世の中はまだまだコロナの波の中にありますが、元の日常が戻ることを信じ、日々の診療に務めています。皆様もお体にお気をつけてお過ごしください。

(為田)



へえー！そうなんやあ！

三重大学病院トリビア

vol.8 スタッフも利用する院内理髪店

附属病院1階にある理容室と美容室。理容師さんの一人は昭和48年に旧病院が開院したときから務められています。入院中の患者さんや外来患者さんのみならず、実は病院スタッフにも愛用者がおり、中には転勤や退職してからも通っている人がいるとか。

コロナ禍にありお客さんの数は減っているとのことですが、感染対策はしっかりと行って営業しています。



国立大学法人【特定機能病院】

三重大学医学部附属病院

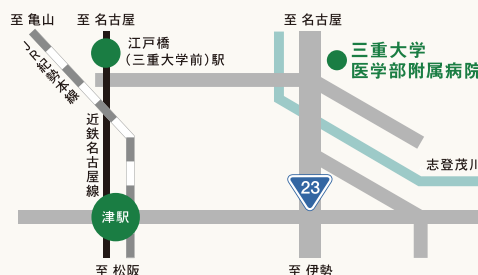
三重大学病院広報紙「ミニ ミュース」vol.9 2021年1月発行 無料

TEL:059-232-1111(代表)

発行:三重大学医学部附属病院 〒514-8507 三重県津市江戸橋2丁目174番地

<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/> 広報センターTEL:059-231-5554

本紙掲載の文章・記事・写真等の無断転載はお断りします。本紙に関するご意見・ご感想は大学病院広報センターへお願いします。



お知らせ

感染症対策、
レシビ、
防災情報などを
UPしていますの
でご覧ください！



病院公式YouTube



ミュースWEB版



フェイスブック